



桑名高等学校

Super Science High school

名古屋大学主催「名大みらい育成プロジェクト」 最終ステージまで選抜されました

桑名高校から、1名が第3ステージ（最終）まで選抜され、「状況を分析する力、計画を立案する力、解決案を描く力、多様性を理解し受け入れる力や英語力」が高く評価されました。

これまで「名大MIRAI」は自然科学分野に興味関心のある生徒を対象としていましたが、今年度からは「名大みらい育成プロジェクト」に名称が変わり、地球規模の問題解決に向けて国際的に活躍できるリーダー人材の育成が目的となりました。文系・理系どちらでも参加可能で、国際的なコミュニケーション能力（英語力）を重視するようになりました。このプロジェクトでは第1ステージから第3ステージまであり、身近な社会問題となった気候変動等の地球規模の課題について、英語による講義やグループ演習、プロジェクト型学習が実施されます。



日本生物学オリンピックへチャレンジ

桑高の3年生が生物オリンピックで予選通過！

「これまで生物を勉強してきた今の力を試したく挑戦することにしました。コロナのことがあったので、予選はオンラインで試験を受けました。試験内容は知識問題ではなく、多くが思考力を問われる問題でした。特に問題文を読み取る力と考察力が必要で、日々の勉強の積み重ねがとても大切だと実感しました。12月20日の本選では入賞できるよう頑張ります！」（出場者コメント）

例年、日本生物学オリンピックは生物学に関するコンテストで、大学入学前の方が対象です。選考は予選、本選、及び国際大会への代表選抜試験があり、はじめの予選では、毎年約4,500～5,000名の受験者の中から、本選に進む約80名が理論問題による試験で選抜されます。

本選では、合宿を行い、試験の実施や生物学の研究者との語らい、研究施設での体験、参加者同士の交流などのプログラムも盛り込まれています。

本選で選ばれた約15名が代表選抜試験を受け、そのうちの優秀な実力を示した4名が日本代表として選抜されます。来年度の生物オリンピックへチャレンジしよう！

いくつかの大学では、日本生物学オリンピックでの成績が入学試験で考慮されることがあります。

(入学試験で考慮される主な大学です。学部は省略しています)

東北大 筑波大 首都大学東京 国際基督教大 慶応義塾大 横浜市立大 東邦大 立命館大 早稲田大
大阪大 広島大 群馬大

日本数学オリンピックへチャレンジ

高校生以下の算数・数学好きな生徒を選び、コンテストを通して生徒を励ましその才能を伸ばすことを目的に、世界から多数の国々が参加する数学オリンピックが毎年7月に開催されています。日本からは、毎年1月の予選、2月の本選、3月の春合宿の成績をもとに選手6名が選抜されています。

年が明けた1月の数学オリンピック予選に挑戦するべく準備を進めている4名の生徒に話を聞きました。

① きっかけは何ですか？

☞ 「数学の所先生から勧められ、興味があったので挑戦することにしました。」

② 最近は何に興味がありますか？

☞ 「ルーローの三角形というものがあります。課題研究では、これをn次元に拡張して出来る図形の体積をどの様にして求めるか苦闘しています。」

③ 数学オリンピックへ向けた意気込みをお願いします。

☞ 「数学オリンピックの過去問を解いてみましたが、難しかったです。また、名古屋大学数学コンテストではボコボコにされましたが、頑張ります！」

(過去に出題された問題は「公益財団法人 数学オリンピック財団」のホームページから観ることが出来ます。)

三重科学オリンピック大会



10月18日、数学、物理、化学、生物、地学、情報の6つの分野をチームで競いあう三重県高等学校科学オリンピック大会が開催されました。筆記試験と与えられた実験課題を時間内に早く正確に解決する内容も含まれ、チームの協力と知恵が試されます。また出題された問題は普段の勉強では考えることはないもので、思考力が試されます。

優勝校は「科学の甲子園全国大会」の三重県代表校となります。桑高からは6分野を得意とする7人が毎年挑戦しています。来年度の2年生も優勝を狙いチャレンジしよう！



三重県立
桑名高等学校

発行元：SSH部
発行日：2020/12/21

